車両速度の情報開示におけるドライバー意思決定問題実験 *

栗野盛光 †　　島田夏美 ‡

2017 年 4 月 10 日

概要

本研究は、自動車を運転するドライバーが走行情報の情報開示における意思決定問題について、oTree による被験者実験を通じ、栗野・高原（2016）[*1]の理論モデルとの整合性や現実への制度設計に関して分析を行う。リスク態度の測定も行い、実験分析はリスク態度ごとにも行った。結果は、人々が完全モニタリング・規制速度を選択するのには、観察確率・罰金・報酬全て効果があることが分かった。さらに、罰金よりも報酬のほうが効果を持つ 。また、観察確率の上昇は、完全モニタリング・規制速度の選択を増やし、ある確率を境に急に完全モニタリング・規制速度選択の割合が増加する。リスク回避的な人ほど、小さい観察確率の上昇に反応することが分かった。

* この実験はトヨタ自動車株式会社（次世代社会システムとモビリティのあり方研究　フェーズ *II*）から研究資金を得ている。

† 〒305-8573　茨城県つくば市天王台１－１－１　筑波大学システム情報系社会工学域

‡ 〒305-8573　茨城県つくば市天王台１－１－１　筑波大学大学院システム情報工学研究科

*1 栗野盛光・高原勇 (2016)「IoT 車両情報の速度に関するモニタリング選択問題」,『応用地域学研究』, 第 20 号, 25 − 35 頁